



Activity Report 活動レポート

Vol.15 / 2012. 10 発行

緒方東京キワニスクラブ会長の抱負

堀井会長の後を引き継ぎ、10月から会長を務めることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

10月1日から一般社団法人に移行したことに伴い、理事の任期は決算が審議される11月の定時総会終了までとなったため、2013年11月までの任期となります。

さて、国際キワニスの新しい会長となった Thomas DeJulio 氏はスローガンとして Connect, Inspire, Advocate (つながろう、元気付けよう、提唱しよう) を掲げています。また、日本地区の北里新ガバナーも「成長するクラブ、社会にインパクトを与えるクラブ、楽しく、感動を共有し合えるクラブ」を掲げています。

こうしたことも踏まえ、私は東京キワニスクラブの基本的方向として、次の三つを重点としたいと考えています。

(1) キワニズドールをはじめとするボランティア活動やエリミネイト・プロジェクトの推進、被災地水産高校への支援などのような社会にインパクトを与える活動を

充・強化して行くこと。同時に、このようなキワニスクラブの活動を広く社会に知っていただき、キワニスの知名度を高めるための広報活動も充実・強化して行きたいと考えます。

(2) そのためにも若者のボランティア活動などを支援したり、会員、中でも女性や若手の会員の増強やサテライトクラブの新設を進めること。この10月からスタートさせる「キワニス・ユース・フォーラム」は、そのための新しい試みです。

(3) これらの活動を通じて会員が感動を共有し合い、また文化・レクリエーション活動なども含め、会員各位がクラブの活動を楽しむようにして、東京キワニスクラブが魅力あるクラブとして成長していくよう図りたいと考えています。

皆様方のご支援、ご参加をよろしくお願いいたします。

(緒方謙二郎会長)



国際キワニス年次総会ニューオーリンズ大会の報告 2012. 6. 28 ~ 7. 1



6月28日～30日までニューオーリンズに行ってきました。全体の参加者は8000人、日本地区からは31名が参加しました。アメリカはとても暑くて華氏で100度以上、3ケタの温度と言われていました。ニューオーリンズは摂氏でいえば35～6度で外は暑いのですが、会場内は寒くて大変でした。

今回の会議で印象的だったのは、全大会エリミネイト一色だったことです。100周年に向けてエリミネイトを成功させようと皆の力が入っていました。現在の段階でお約束分も含めて日本地区は世界で会員一人当たりの寄付額が一番多くなる予定ということで、齋藤ガバナーが表彰されました。東京クラブも100Kと

いう1万ドル（800万円）の寄付の約束をいたしました。100Kは会員数が多くないといけないもので、日本地区では東京と名古屋が約束しました。全世界でも30クラブほどでした。東京は、また、一人当たり750ドル以上の寄付を約束するモデルクラブの宣言もしています。ぜひ、皆様のご協力をお願いいたします。また今回は、キワニスに女性が入会できるようになってから25周年という事で、女性会員の功労者の表彰もありました。また国際会長賞6部門のうち5部門において、日本地区のクラブ・個人が表彰されました。

ニューオーリンズならではのジャズやバーボンストリート等も楽しんで参りました。ハリケーンカトリーナの影響はどうかと気になっていましたが、ニューオーリンズの町そのものは私が15年ほど前に行ったときとあまり変わりはないと感じました。来年の大会はバンクーバーです。6月のバンクー



バーは季節も良く、素敵な街ですので、たくさんの方とご一緒したいと思います。

（堀井紀壬子前会長）

国際キワニス年次総会ニューオーリンズ大会に初めて参加して

2012. 6. 28 ~ 7. 1

これまでキワニスの国際会議に行ったことがなかったのですが、今回はリタイアした身軽さからキワニスの国際大会の様子も知っておきたいと思い参加しました。ニューオーリンズは、数年前のハリケーン・カトリーナの猛威から立ち直りつつあり、10年前に訪れた時と比較して街の中心部は大きな爪あともなくあまり変わっていないことに安堵しました。

アメリカ各州の大勢のキワニアンと各国からの参加者で総勢は8000名、総会は6月28日から30日までニューオーリンズのコンベンションセンターで行われ、日本からは31名、東京クラブからは17名が参加しました。

われわれ日本からの参加者はヒルトン・ニューオーリンズに割り当てられましたが、会場に近く、ホテルの前にはミシシッピー川沿いを走るストリート・カーの停留所があり、向かい側は巨大なカジノ (Harrah's Cashino) があり便利な場所でした。

開会式はニューオーリンズの祭り (マルディグラ) の再現ではじまり、まさにお祭り気分の中、アランペン会長の挨拶、各地区ガバナーの紹介、ニューオーリンズで活躍している Smoking Time Jazz Club などの演奏の後、エリミネイトプロジェクトの進捗状況報告、表彰式などが続きました。二日目は重要テーマのワークショップ、総会 (業務報告、規約改正の審議、本部役員選挙など) があり、夕食後のコンサート (ニュー

オーリンズ出身の世界的有名な歌手とサキソフォン奏者 Aaron Neville と Branford Marsalis のジョイントコンサート) を堪能しました。三日目は親睦朝食会、閉会式がありコネリー賞の表彰、キワニス女性会員25周年記念の表彰、トム・デ・ジュオリ新会長の挨拶 (プレゼンテーション) で終了した。

ASPAC 夕食会のあと10名ほどでジャズを聴きに行き、夜遅く賑やかで喧騒のバーボンストリートを一時間もかけてホテルまで歩いて帰って来たこと、猛烈に暑く、湿気の多い昼間にフレンチクォーター内をKさん、Oさんと汗びしょりになりながら散策したことなどが思い出されます。ルイジアナ州立博物館 (旧造幣局) でサッチモが若いころ愛用していたコルネットを見ることができたり、南北戦争博物館で長い間気になっていた「ディキシランド」の語源を偶然知ることができたことは望外の喜びでした。日本から参加した地区役員や各クラブの会長さんは会議などの公式行事に追われ大変でしたが、自由な一参加者として散策したり、観光を楽しむことができました。少し、申し訳ない気持ちでもあります。

今回初めて国際総会に参加し、各種のレセプションや夕食会、最終日の朝食会など国際的な親睦、交流の機会も多く、キワニスの国際的な広がりを強く実感し、体験した貴重な機会となりました。

（古屋俊彦事務局長）

日本地区総会報告 2012. 9. 7

今年のキワニス日本地区総会は、9月7日に、和歌山市にあるダイワロイネットホテル和歌山で開催されました。

総会に先立って日本地区役員会が開催され、2012 - 13 事業計画及び予算書などの審議事項が原案通り承認されました。そのほか報告事項としては、キワニス財団の事業経過・決算見込み、東日本大震災キワニスクラブ共同基金報告、エリミネイト・プロジェクトの報告、広島大会の企画などです。

ランチタイムも休みなく、日本地区の重点項目委員会（YCPO、クラブ新設、ユース）に分かれてワーキング・ランチで、各クラブのプロジェクトが紹介されました。

午後は新年度の日本地区役員委員向けの研修で、秋山マスターインストラクターによる研修のあと、北里次期ガバナーが、知名度アップなどの次期重点項目を説明されました。

午後3時からはいよいよ日本地区総会が開催されました。議事は役員会に準じますので、省略します。

続いて午後4時15分からは表彰です。ことしのキワニス文化賞は、製竿師 城純一氏に授与されました。

国際表彰のロバートコネリー（英雄的自己犠牲賞）は、平成23年7月、和歌山県串本町で川でおぼれて



いる子どもを救助した藤本貴士氏に授与されました。

続いて、国際会長賞として、キワニス女性賞、アニュアル・クラブ・ギフト・キャンペーン、エリミネイト（100K、モデルクラブ、ゼラー賞）該当の個人やクラブが表彰されました。

次に日本地区表彰です。東京はなんと、優秀クラブ、国際大会2名以上参加、キワニスドル寄贈数一會員の2倍以上、高額寄附の4部門で表彰を受けました。

また、優秀会員賞受賞者も全国最多の18名、新入會員2名以上紹介の會員が全国最多の7名受賞と、多くの表彰をうけ、おかげさまで私は表彰の間、9回もステージにあがり、大変忙しい時間を過ごしました。東京クラブがこれだけ多くの表彰を受けるのは、皆様方のお力のおかげです。ありがとうございました。盛りだくさんの表彰で時間が超過、ディナーのスタートは30分遅れとなりました。

夜の懇親会は和歌山の女性和太鼓ユニットの力強い太鼓のパフォーマンスでスタートし、おいしいお料理やお食事、マグロの解体ショーと、マグロのお刺身お寿司で、楽しいひと時を過ごしました。

来年は新潟、多くの皆さんとご一緒したいと思います。

（堀井紀壬子前会長）



第4回 キワニスドル・ シンポジウム

2012. 6. 16



東京キワニスクラブでは、横浜、千代田キワニスクラブと共催で6月16日「第4回キワニスドル・シンポジウム」を東京都千代田区大手町の㈱パソナグループ本部会議室で開催しました。150名を超える参加をいただき、キワニスドルをはじめとしてボランティ

ア活動に関係する方々の関心の高さがうかがえるシンポジウムとなりました。

シンポジウムのコンセプトは従来から「キワニスドルの活用・製作両サイドの相互理解を深めることにより、ドル活用の一層の展開をはかる」として進めて来ていますが、今回のポイントは医療現場における事例に加え、初めて製作当事者の取り組み事例の紹介を実施したことです。

発表者は、医療現場から、東京大学医学部付属病院関口主任副看護師長、神奈川県立こども医療センター岩崎主任看護師のお二人、ドル製作側から東京愛育園金町学園濱崎園長、田園調布学園中等部・高等



部間瀬教諭のお二人の4名です。

その後、参加された看護師、学生、CSR企業、一般ボランティアの皆様にもキワニスクラブの会員も加わり、グループに分かれて意見交換会を実施し、各グループの代表に結果を発表していただきました。

当日のアンケートやグループディスカッションを通じて、「病気と闘う子ども達にどの様にドールが使われているか知ることが出来て良かった（初参加）」、「作っ

下さる方がいて入院している子ども達の笑顔がある。感謝申し上げます。（医療関係）」、「聴覚障害者が作ってくれている。支援する立場、ボランティアをする意義、本質が理解できた。（医療関係）」、などのご意見・ご感想が寄せられました。

また、キワニスクラブに対しては、普及やボランティアの拡大にはまだまだ課題があると受け止めて頂いた上で、「協力できるところで参加したいので、声を掛けて欲しい」、「活用と製作双方のコーディネート役を頑張って欲しい」などのご要望を頂戴しました。

情報共有を通じてキワニスドールへの相互理解を深めると同時に、キワニスクラブとしてドールの普及充実を図る上での課題も再認識するシンポジウムでした。

シンポジウム終了後、希望者による「ドール綿づめ体験会」を実施しましたところ、80名を超える方々にお出で頂き、初体験の方はベテランのアドバイスを受けながら時間一杯楽しく製作して頂きました。ご支援・ご協力を頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

（松本一紀キワニスドール・シンポジウム実行委員長）

第46回キワニス社会公益賞贈呈式 2012. 7. 20

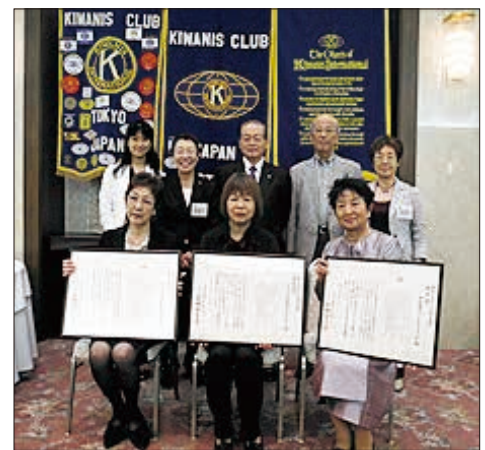
社会公益委員会は、会員をはじめとして、各種団体から甲乙付けがたい9団体の推薦を受け、1年間に及ぶ選考作業の結果、最優秀賞として「NPO法人勉強レストランそうなんだ!!」、優秀賞として「NPO法人江戸しぐさ」、「文化・芸術いきいきネットワーク」の3団体を受賞団体と決定し、7月20日金曜日の例会席上で、社会公益賞の贈呈式を執り行いました。

最優秀賞を受賞された「NPO法人勉強レストランそうなんだ!!」（福喜多明子理事長）は、知的な障害を持つ人々及び一般市民を対象として、国語、算数、理科といった学校教育で取り扱う分野のみならず一生涯にわたって必要とする知能や技能の学びの場を提供する事業や、地域の中で障害のある人ない人々の交流の場を提供する事業を行うことで、知的障害者が地域社会の中で自立した生活を送れる豊かな福祉社会と共生社会の実現に寄与することを目的とした団体です。

優秀賞を受賞された「NPO 江戸しぐさ」（越川禮子理事長）は、「江戸しぐさ」を社会に普及、振興することにより、共生社会の実現に寄与し、江戸商人たちが築いた「江戸しぐさ」をもとに、現代社会に活かせる「今しぐさ」を提言しています。また、志を同じくする人たちと人材ネットワークを形成し、互助・協力の精神で取り組んでいる団体です。

同じく優秀賞を受賞された「文化・芸術いきいきネッ

トワーク」は、介護保険では、手のついていない、人が人としての大切な部分について支援していきたいと活動を続



けている団体です。高齢者施設や地域の高齢者やその介護をしている人達へ、プロの音楽家による生演奏を届けたり、さまざまなアクティビティを実践し、誰もが迎える高齢期を豊かなものにするために活動しています。

キワニスクラブの社会公益賞が、「世間に知られず酬いられることが少なく、永い間献身的労苦を続けておられる人達を広く探し求め、その功績に敬意を表すると共にその尊い存在を世間に紹介しようとするもの」です。価値高い活動を展開している3団体に心から敬意を表するとともに、ますますのご活躍を心から祈念いたします。（荒木なぎさ前社会公益委員長）

青少年教育賞表彰式・講演会 2012. 9. 29

今年度の青少年教育賞の表彰が9月29日(土)、昨年と同様、東京青山の伊藤忠商事の本社で開催されました。

今年の教育賞は、経済的に恵まれない家庭の子どもへの無料学習塾開催などを通じて教育格差解消を目指す「ガクボラ」、現地での活動も含めてカンボジアの児童買春問題解消に取り組む「ゆるかも」、東北大震災被災地での奉仕活動参加などを通じ非行少年の更生に尽力する「信州ライポ隊」と、いずれもキワニスクラブが目指す青少年、子どもの健全な育成に携わる3団体に授与されました。3団体による活動報告では、被災地や海外での活動を通じて、「非営利組織は人を変えた時に役割を果たす」(ドラッカー)というボランティア活動のミッションが実現され、同時にボランティ



ア自身が変わってゆく過程が生き生きと示され、また昨年受賞の3団体からも、その後の一層の活躍についての近況報告が行われた。

次いで、「明日への架け橋～ボランティアが切り拓く未来」と題するシンポジウムが開催され、パネリストとして、表彰団体の「ガクボラ」と、「ゆるかも」の親団体かものはしの代表に加え、先に社会公益賞最優秀賞を受賞した「勉強レストランそうなんだ!!」および伊藤忠記念財団の代表が登場しました。いずれも青少年・子どもの健全な育成を目指している一方、学生、社会人、企業、海外での活動とそれぞれ異なったバックグラウンドを持つ4人のパネリストにより、ボランティア活動のあり方などに関する意見交換が行われました。参加者からは表彰式とシンポジウムを通じて多くの真摯な奉仕活動が紹介され、かつボランティア活動についての困難や悩みも含めて極めて率直な発言が聞かれるなど、意義ある時間を過ごすことができたとの声が寄せられました。

最後に、東京キワニスクラブによる青少年のボランティア活動支援のための新しい試みとして、最近の受賞団体などに声を掛けた結果、6団体の賛同を得て、若者のボランティア団体の交流のためのキワニス・ユース・フォーラムを結成することになったことが報告されました。(吉國眞一前青少年教育委員長)

キワニスドールを作る

2012. 6. 2、6. 4、8. 8、8. 29

最近、キワニスドール作成を授業に取り入れてくれる学校が新たに増加しております。また、これまでになかったケースとして企業が社員のボランティア活動の一環にキワニスドール作りを採用してくれました。この試みには日本フィランソロピー協会に仲介の役を果たしていただいております。このようにキワニスドールを作る会が増加しておりますので、多くの会員の積極的な参加を期待しております。

● 田園調布学園中等部・高等部 2012. 6. 2

田園調布学園は毎年1年に2回家庭科のカリキュラムでキワニスドール作りを行っています。今年は6月16日の第4回キワニスドール・シンポジウムで担当の先生のスピーチやKファミリー委員会からの表彰を受けることが決定されていたこともあり盛り上がった時間となりました。また9月29、30日の同校の学園祭「なでしこ祭」におきましてキワニスドールの展示が行われ当クラブからも会員が田園調布学園を訪れました。



● JCB 2012. 6. 4

JCBは企業の「社会貢献プロジェクト」として、これまで外国絵本への和文貼り付け、眼の不自由な方のための音読等を行ってこられました。その一環にキワニスドール作りを行いたいとのことで開催いたしました。13時30分からの開始でしたが10名ほどの若い方の参加でした。皆さん既に子どもさんをお持ちの方が多く、そのためか、楽しい、こういうことだと知っていればもっと参加者が増えたかもしれない、是非また

開催してほしいなどの感想を聞かせていただき今後も期待できそうです。

● アクセンチュア 2012. 8. 8

アクセンチュアでは企業の「社会貢献プログラム」としてキワニスドール作りを開催していただきました。時間外の19時からという限られた時間でしたが外国人男性の参加もあり21時まで和気藹々の雰囲気でした。アクセンチュアの皆さんからもこの会合をまた開催してほしいという感想が多くありました。

● 目黒星美学園中学高等学校 2012. 8. 29

目黒星美学園でもこのところ毎年キワニスドール作りを続けております。今年は夏休みの一日で今回が初めてという生徒も多かったようですが、仕上がりはなかなかの出来栄でした。同校では9月16日の学園祭



「純花祭」でキワニスドールを作る会を開催していただきました。生徒の父兄、弟妹など多くの方の参加をすることができました。

(高坂和夫ボランティア活動委員長)

東日本大震災義捐金

昨年3月11日の東日本大震災から一年半が経過しました。瓦礫の処理、町並みの再建が被災者の思いとは別に遅々として進まず、被災者の嘆きが聞こえてくるようです。

しかし、キワニスクラブ共同基金の支援事業は、予定通り進んでいます。キワニスクラブ共同基金は、日本だけでなく世界のキワニスクラブから寄せられた37,985千円の浄財を元に昨年12月に設立され、支援を開始して9ヶ月が経ちました。

共同基金の佐藤運営委員長は、この間、被害の最も大きかった岩手、宮城、福島を延べ3,000 Km 自ら車で走り、有効な支援プロジェクトを探し回ったとのこと。その甲斐あってか、今日まで合計30

件12,583千円の支援を実現し、被災された子どもたちを中心に親御さん、教育関係者の皆さん、そして市や、町や、村の皆さんに大変喜んで貰っています。

最も新しい支援は、石巻の震災孤児の40名に対する奨学金の贈呈です。また、壊滅的な被害を受けた南三陸町の子どものために TERACO「キワニス棟」作って子ども達に図書室を贈ったというプロジェクト支援もありました。すべて、キワニスのモットーである子ども達のためです。

今後とも、子ども達の心のケアに資する支援にも十分配慮し、有効な支援プロジェクトを開拓して参ります。個別の支援プロジェクトの内容は、キワニス共同基金のホーム・ページの次の URL をご覧下さい。

<http://kiwanisjointfund.jp/>

(吉田浩二日本地区事務総長)

エリミネイト募金目標達成に向けて

国際キワニス創設100周年(2015年)を記念して進めているMNT(妊産婦・新生児破傷風)撲滅のための資金獲得活動、エリミネイト・キャンペーンもいよいよこの10月から3年目に入りました。キャンペーンのスケジュールでは今年度は「参加の年」(Year of Participation)として各クラブが募金目標を定め、その達成に向けて具体的な募金活動を始めるとなっています。

わが東京クラブは、去る6月にモデル・クラブ(会員一人当たり750米ドル以上を募金するクラブ)と100K

ELIMINATE

Kiwanis eliminating maternal/neonatal tetanus



クラブ(クラブで10万米ドル以上を募金するクラブ)になることを宣言しています。東京クラブがモデル・クラブとなるためには、その会員数を220名として、16万5千米ドルを集める必要があります(100Kクラブの目標金額はこの過程で自動的に達成されます)。去る9月末で東京クラブその約30%に当たる5万1千米ドルを集め、国際キワニス財団へ送金しました。主たる財源はゼラー賞受賞等の有志会員からの寄付とファミリー・バザーの売り上げです。

今後とも東京クラブとしてはこの宣言を達成するため

の具体的な募金を一段と強力に推進していくこととなります。募金の中心はなんといっても個々の会員からの寄付となります。

残りの必要金額は会員一人当たりだと現在の為替レートで約4万円となります。4万円という金額は決して少ない金額ではありませんが、1週間あたり200円を積み立てていくと1年50週で1万円、4年間で達成できる金額ではあります。1週間に1回、200円のコーヒーを我慢すれば4年で達成できます。ゴルファーの皆さんがプレー毎に1千円を積み立てれば月イチ・ゴルファーでも3年と一寸で得られます。70歳以上のゴルファーはゴルフ場利用税（首都圏では1回当たり平均1千円）が免除されています。若返った

と考えてこれを負担する心算になり、税当局ではなく、エリミネイトに寄付していただければいいのです。

勿論、募金活動は会員個人の寄付の他、バザーのようなイベント、外部への寄付の要請もあり、総合的に計画し、実行していく必要がありますが、我々キワニス会員としては日常の一寸した心がけ、節約によってある程度のまとまった金額を生み出すことが出来ることをこの際体験し、成果を上げることが肝要です。このような慣行が定着し、キワニスの体質となっていけば、エリミネイトのみならず将来のキワニスの大きな力になっていくのではないのでしょうか。

（横山太蔵エリミネイトプロジェクト地域コーディネーター）

平成24年度国際懇話会について

国際委員会では、今年度に5回の国際懇話会を開催しました。講師名と演題は次の通りです。

猪口孝・新潟県立大学学長

—「東アジア情勢と日米関係」、

立川敬二・（独）宇宙航空研究開発機構理事長

—「日本の宇宙開発と国際協力」、

山内昌之・明治大学特任教授

—「中東の危機と民主化の将来」、

田中伸男・

（財）日本エネルギー経済研究所特別顧問

—「ポスト福島のエネルギー政策」、

田中均・日本総合研究所国際戦略研究所理事長

—「世界の変動と日本の将来」。

出席者は最大41名で、平均では37名でした。アジア情勢、中東情勢、科学技術・宇宙開発、エネルギー動向など、日本にとって極めて重要なテーマにつき、卓越した見識と豊富な経験をお持ちの講師のお話は、生々しく、迫力溢れるものでした。ワインの貢献もあり、オフレコの話も少しは登場し、一層中身の濃い講演となったと思います。出席者は、ワイン・デイナーと共に、講師のお話を十分楽しまれ、また、多くを学ばれたと思います。多くの会員の方々が、ご多忙の中、国際懇話会にご参加下さったことに対しまして、また、講師をご紹介下さいました方々に対しまして、心からお礼申し上げます。（松見芳男前国際委員長）

「一般社団法人東京キワニスクラブ」へ移行が完了

東京キワニスクラブは、昭和39年に発足後、「慰霊の泉」の建設を機に当時の厚生大臣の許可を得て社団法人となったのは、昭和42年でした。

平成18年の法律改正に対応して、新定款案等を添えて本年2月内閣総理大臣に一般社団法人への移行を申請したところ、9月27日に認可され登記手続を終え、10月1日より「一般社団法人東京キワニスクラブ」となりました。

新法人に移行したといってもクラブの目的や事業（活動）に変更があったわけではなく、

- ① 目的に、青少年の健全育成を加えて青少年教育賞等の根拠を明確にし、（改正法に合わせ）
- ② 定時総会を11月とし、9月には臨時総会を行うこととし、
- ③ 役員会を「理事会」とし、
- ④ 役員は理事・監事を総会で選び、会長（代表理事）、

事務局長等は理事の中から理事会で選定することとした。

ことなどが主な変更で、事業はこれまで通り続きます。

以前は、厚生労働省の監督を受け定款変更の認可のほか役員の就任、事業計画、予算・決算等の届出が必要であり、また、不定期であるが立入検査も受けました。

一般社団法人への移行後は、法律上、24年9月期末の剰余金相当額（公益目的財産額）を従来の公益事業やKJFへの寄附に使用（5年間）しなければならないので、その履行に限って内閣府の監督に服しますが、それ以外は、法令の範囲内で自由な活動ができ、定款変更も官庁の認可は不要で、活動の自由度が大きくなり今後の事業拡大や会勢発展に活用していただけることと思います。（伊藤康成元会長）

長崎クラブの新設

2012. 9. 4

9月4日、日本地区では3年ぶりに新しいクラブが設立されました。九州ディビジョンの長崎クラブです。日本地区では29番目のクラブとなります。チャーターメンバーは21名で、初代会長には長崎歴史文化博物館館長の大堀哲氏に務めていただくことになりました。

9月4日のクラブ設立総会とレセプションには、国際キワニスのアラン・ペン会長ご夫妻と国際キワニスの日本地区カウンセラーのシュアード・ティーマン理事の参加も得ることが出来ました。アラン・ペン会長ご夫妻には以前から日本地区に公式訪問されることをお願いしていましたが、なかなかスケジュールが合わず、漸く韓国の地区レベルへの復活を祝う大会への参加の後、エクアドルへの公式訪問の間に予定を滑り込ませることに成功し、公式訪問が実現したものです。というのも、長崎クラブの新設は熊本クラブと福岡クラブのタッグマッチによる並々ならぬ努力で、6月から取り掛かりわずか3ヶ月で新設に成功したものです。この努力に対し、何とし



ても国際的な認知を得たいということで国際会長と共に設立を祝う機会を作り上げたかったのです。

これを機に、九州ディビジョンのクラブ新設の活力は再び盛り上がり、佐賀、宮崎での新設に取り掛かったとの便りも届いています。何事も成長なくして発展なしです。この活力が日本地区全体にみなぎっていくことを期待したいものです。

(吉田浩二日本地区事務総長)

平成24年サマーパーティ

2012. 7. 19

7月19日(木) 18時より東京キワニスクラブ恒例のサマーパーティがライオン銀座5丁目店の9階スターホールで会員47名ゲスト8名の総勢55名の参加で開催されました。

この会場は、過去にも何度か開催され、銀座4丁目の交差点(1階に日産のショールームがある)ということもあり環境には申し分のないところで、9階か

ら銀座4丁目の交差点を眺めるのもなかなかのものでした。

上布のお着物を爽やかに着られている堀井会長の開会のご挨拶と、青木副委員長のユーモア溢れる乾杯で一挙に場がなごみ、銀座ライオンのとても美味しい特製料理と飲み放題のサッポロビール、ワイン、お酒、焼酎、ジュース等をいただきながら、会員とゲストそれぞれが和気あいあいと談笑され楽しい、また素晴らしいコミュニケーションの場となりました。

そして、会場も笑いに満ちた頃、本パーティのスペシャルイベント、山口憲明会員と仲間によるfolklore(アンデス音楽)が始まりました。普段なかなかアンデスの音楽に接する機会が少ない貴重な体験でした。山口会員と仲間の太田淳子さん、幸路正人さん、吉村一正さんの4人がケーナ、サンボニャ、チャランゴ、ギター、ポンポ、と云う楽器でお馴染みの「コンドルは飛んでゆく、花祭り、エル・サリーナ(アンデスの旅人)、マリ・ポーサ」を次々と見事な演奏に会場は興奮と熱気に包まれこの会を盛り上げてくれました。それにしてもアマチュアと云うよりもプロのようでした。山口憲明会員がこのラテン音楽にはまったのは、40年前のメキシコ駐在生活時に興味を持ちその後、趣味



の登山を続けて行く中で、何か山で演奏できる楽器がないかと考え、ポリピア・ペルーのケーナに目をつけカルチャースクールに通って勉強（20年前）なされたと聞いております。メンバーはその時に会った音楽仲間の方達だそうです。ブラボーの一言でした。そして、感激と万雷の拍手の中演奏は終わりました。

最後にユーモアとウィット富んだ秋山誠一会員のご挨拶でサマーパーティは終了しました。来年のサマーパーティはどんな催しものがあるのでしょうか。今から楽しみです。

（柵澤青路前レクリエーション委員長）

新入会員オリエンテーションに参加して

2012. 7. 27

新入会員オリエンテーションのご案内をいただき、当日は私を含めて4名の新入会員と諸先輩16名の参加の下で、会が開催されました。

新入会員の自己紹介や各委員会の活動説明と会次第を順次こなしつつも、お酒を酌み交わしながらの各委員会からの熾烈で楽しい勧誘合戦もありで、大変楽しく一時を過ごさせていただきました。

また、たくさんの貴重なアドバイスをいただきましたが、国際キワニス日本地区の吉田事務総長様からお話いただいた「キワニスの目的 (Object)」の中で、「キワニスの助ける子どもは、地球上 (the world) の特定の子どもたち (the children) である。」旨は、ぼんやりとしていたキワニスの心を少しだけ覗けた気がいたしました。

さらに和やかに歓談が進むうちに、当日出席者の最年長と自認されておられた林達夫様から、年を取ってからは「小金、交友、健康、小奇麗」の4Kを心がけるべきという話は、全く持って腑に落ちる話で、参考



にさせていただく所存です。

キワニスに入会して、このように気品がありアクティブな諸先輩方と共に活動できることを喜びとしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

（石川雅夫会員）

「秘話 日本の百年」について

ご存じの方もおられると思いますが、東京キワニスクラブは、今から、40年以上前の昭和43年に、大和書房から、「秘話 日本の百年 — はじめて明らかにされる三代の内幕」という本を出版しています。

調べてみますと、これは、設立後間もない、東京キワニスクラブが、明治百年記念講演として行った、昭和41年4月1日の阿川弘之氏の「山本五十六」雑談から、翌昭和42年9月8日の松永安左エ門氏の「明治200年」までの30回の講演のなかから、21の講演をまとめて、世に出したものです。

筆者にとっては、極端に言えば歴史上の人物ともいべき方々が、東京キワニスクラブで肉声で「秘話」を語っていただいたと思うと、約50年前の当クラブの先輩の方々の御努力に頭がさがります。

なお、この本は、数冊ですが、事務局に置いてあります。

（増田好平広報委員長）



2012年6月から9月までの活動

2012 年 6 月	1	第 2122 回例会(講師：國松孝次氏)
	2	田園調布学園キワニスドールをつくる会
	3	静嘉堂文庫美術館講演会「静嘉堂コレクションとの出会い」
	4	JCB 社会貢献プログラム ドールをつくる会
	5	火曜会
	10	第 4 回歌舞伎鑑賞教室
	12	火曜会
	13	戸栗美術館「初期伊万里展」学芸員による展示品説明
	14	第 44 回日本酒を楽しむ会
	15	第 2123 回例会(講師：染谷ゆみ氏)
	15	第 58 回囲碁愛好会
	16	第 4 回キワニスドール・シンポジウム
	17	第 18 回落語鑑賞会
	18	第 57 回国際懇話会(講師：田中伸男氏)
	19	火曜会
	22	第 2124 回例会(講師：玉置章文氏)
	23	戸栗美術館「初期伊万里展」学芸員による展示品説明
	26	火曜会
	28	宝塚観劇会宙組公演
	28-7/1	第 98 回国際キワニス年次総会ニューオーリンズ大会
30	工藤重典(フルート)のコンサート	
7 月	1	金町学園でのキワニスドールをつくる会
	3	火曜会
	6	第 2125 回例会(講師：本川淳一京都クラブ会員)
	10	火曜会
	12	第 45 回日本酒を楽しむ会
	15	「フラの女神」カノエ・ミラーの帝国ホテルディナーショー
	17	火曜会
	19	サマーパーティ
	20	第 2126 回例会 社会公益賞贈呈式 / ガバナー公式訪問
	20	キワニスドールをつくる会(例会場)
	23	文京学院大学女子中学校・高等学校でのドールをつくる会
	24	火曜会
31	火曜会	

8 月	2	宝塚観劇会星組公演
	3	第 2127 回例会(講師：上條茉莉子会員)
	7	火曜会
	8	アクセンチュア社会貢献プログラム ドールをつくる会
	17	第 2128 回例会(講師：下出憲一氏)
	21	火曜会
	28	火曜会
	29	目黒星美学園中学校・高等学校ドールをつくる会
	30	宝塚観劇会月組公演
	31	第 2129 回例会 (講師：宮 健三氏)
	9 月	4
4		長崎キワニスクラブ設立総会
7		第 36 回国際キワニス日本地区年次総会和歌山大会
9		第 34 回文楽を楽しむ会
11		火曜会
13		第 46 回日本酒を楽しむ会
14		第 2130 回例会(講師：北里光司郎次期ガバナー)
14		キワニスドールをつくる会(例会場)
14		第 59 回囲碁愛好会
16		第 34 回文楽を楽しむ会
16		目黒星美学園中学校・高等学校学園祭ドールをつくる会
18		火曜会
20		第 12 回ワインを楽しむ会
20		宝塚観劇会花組公演
21		第 2131 回例会 ((社)東京キワニスクラブ定時総会)
21		第 59 回囲碁愛好会
22,23		大相撲九月場所観戦会(第 9 回)
24		第 58 回国際懇話会(講師：田中均氏)
25		火曜会
26	日本醸造学会懇親会	
26	文京学院大学女子中学校・高等学校でのドールをつくる会	
27	新入会員オリエンテーション	
29	東京キワニスクラブ青少年教育賞表彰式・シンポジウム	

2012年10月から2013年1月 今後の予定

2012年 10月	2	火曜会
	3	キワニスドールをつくる会(パソナグループ会議室)
	5	第 2132 回例会(講師：前野博紀氏)
	5	新旧役員懇親会(電気倶楽部)
	8	秋季ゴルフ大会(箱根湖畔 GC)
	9	火曜会
	10	UBS 証券(株)キワニスドールをつくる会
	11	第 47 回日本酒を楽しむ会
	11	東京家政学院中学校・高等学校キワニスドールをつくる会
	13	荏原看護専門学校学校祭キワニスドールをつくる会
	13	広尾看護専門学校学校祭キワニスドールをつくる会
	13	板橋看護専門学校学校祭キワニスドールをつくる会
	16	火曜会
	16	UBS 証券(株)キワニスドールをつくる会
	17	東京海上日動火災保険(株)社会貢献プログラム ドールをつくる会
	18	エリミネイト支援、福井クラブ新設応援ヴァイオリン・リサイタル
	19	第 2133 回例会(講師：吉田勝昭氏)
	19	第 60 回囲碁愛好会
	20	静嘉堂文庫美術館「受け継がれる東洋の至宝 Part II」
	23	火曜会
	24	JCB 社会貢献プログラム ドールをつくる会
	25	宝塚観劇会宙組公演
	27	エリミネイト支援第 2 弾 クーベリックトリオ・コンサート
	28	児童虐待防止オレンジリボンたすきリレー
	30	火曜会

11月	2	第 2134 回例会(講師：福井真紀子会員)
	6	火曜会
	8	第 48 回日本酒を楽しむ会
	11	第 19 回落語を楽しむ会
	16	第 2135 回例会(講師：歳川隆雄氏)
	16	キワニスドールをつくる会(例会場)
	16	第 61 回囲碁愛好会
	19	第 59 回国際懇話会(講師：古森義久氏)
	20	火曜会
	27	火曜会
12月	28	東京海上日動火災保険(株)社会貢献プログラム ドールをつくる会
	29	宝塚観劇会雪組公演
	30	第 2136 回例会(講師：井上亮氏/定時総会)
	4	火曜会
	7	第 2137 回例会(講師：室伏良香会員)
	8	第 35 回文楽を楽しむ会(鑑賞教室)
	11	火曜会
	13	第 49 回日本酒を楽しむ会
2013年 1月	15	忘年囲碁大会と忘年会
	16	第 35 回文楽を楽しむ会(文楽公演)
	21	第 2138 回例会(講師：池川明横浜クラブ会員)
	29	第九を聴く会(サントリーホール)
	5	新春大歌舞伎(新橋演舞場)
	11	第 2139 回例会(新年互礼会)
	15	火曜会
18	第 2139 回例会(講師：清水公也氏)	
1月	19	田園調布学園キワニスドールをつくる会
	22	火曜会
	27	大相撲初場所観戦会(第 10 回)
	29	火曜会
	31	宝塚観劇会星組公演

キワニスドールとは

身長約 40cm で体重約 50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子どもたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気の子どもの人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用実例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウムを開催しています。

キワニスドール (Kiwaniis Doll) を平成 18 年 7 月 14 日に、商標登録いたしました。

エリミネイト・プロジェクトについて

キワニスはユニセフと共同で世界から母子破傷風を撲滅する活動を展開しています！

2015年までに1億1千万ドルを募金し、6,100万人の母子の命を救う活動です。日本のキワニスクラブはこの活動に賛同し、募金活動を行っております。

母子破傷風についての基本データは

- 破傷風は、9分に1人、毎日、160人の赤ちゃんの命を奪っている。
- UNICEFでは、2000年からこれまで20か国で母子破傷風の撲滅に成功し、残る40か国での撲滅を国際キワニスとUNICEFが協力して行い、世界からの撲滅を目指すこととなった。
- 破傷風ワクチン3回を妊産婦に注射すれば赤ちゃんまで免疫が得られる。
- 1回60セント、計3回1.8米ドル(約140円)の注射で母と将来の赤ちゃんの命を守ることが出来る。

エリミネイト・プロジェクトは、6,100万人のお母さんと赤ちゃんを助けることが出来ます。



日本は破傷風撲滅の先駆者—誇りを持ってこの活動を推進しよう！

破傷風撲滅というと、日本にはあまり関係がないと思われる方もいるかと思いますが。実は、破傷風菌と戦い、世界に先駆けて、破傷風菌の純粋培養に成功し、破傷風の免疫体を発見し、血清療法を確立したのは、日本の細菌学者北里柴三郎博士でした。日本はこの分野での世界の先駆者です。今回のキワニスクラブでの母子破傷風の撲滅に対するエリミネイト・プロジェクトのスタートに当たっては、既に北里研究所と北里大学より、2011年の日本地区千葉大会での特別講演等も含め特別の支援を受けています。日本地区は誇りをもってこの活動を推進しましょう。

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どものための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Num-Kee-Wan-is”(みんな一緒に集まる)に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約80ヶ国、8,000のクラブ、約23万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、渋谷、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎の順に生まれ、現在29のクラブで会員は約1,600名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 緒方 謙二郎 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwaniis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>